

子どもの発達に関する最新の知見(特別支援教育に関するものを含む)と 多様化に応じたクラスづくりと担任の役割

発達評価の視点

認知・・・言語・空間認知・数・概念化・時間・記憶・推論など
運動・・・粗大運動・微細運動
社会性・・・基本的生活習慣・対人関係

発達の問題

発達の遅れ・・・・・・・・・・年齢よりも発達段階に応じた関わり、配慮
発達の偏り（問題行動・不適応行動）・・・原因、理由に応じた関わり、配慮

1. 発達の遅れへの配慮 発達のレベルに合わせた配慮

- ①保育のねらい・・・「何を経験させたいか」「どこまで経験させたいか」
- ②具体的に、ゆっくり、繰り返し教える・・・見てわかりやすく
- ③一連の作業は、一部分からできるようにして、徐々につなげていく
- ④興味、関心、意欲をひきだす

2. 発達の偏り（問題行動・不適応行動）への配慮

- ①五感の歪みや偏り → 身体・気持ちのコントロールの困難

・過敏（注意が向いてしまう・避けようとする）



感覚刺激が過度にならないよう環境を調整する

過敏な感覚に集中しないよう、ほかの感覚を刺激する

・鈍麻（刺激に気がつかない・強い刺激で補おうとする）



害のないかたちで感覚刺激を満たす

②体性感覚の偏り

- ・前庭感覚（バランス）と固有受容覚（力のコントロール）の偏り



その感覚を含む動きを、遊びや生活の中で無理なく経験する

(自発的に取り組める工夫、自然を体験できる場、園庭などの野外環境)

③自己有能（肯定）感の低下

- ・成功体験を積み重ねる・・・できそうなことを設定する
- ・「やってもよい」場所と時間を確保する
- ・ほめる

3. 自閉症スペクトラム障害（ASD）の理解と配慮

- ①対人関係をつくることの難しさ・・・まず保育者が遊びを共有
- ②言語コミュニケーションの難しさ
- ③興味・関心が狭い、行動が限定、変化に弱い
- ④感覚刺激への過敏や鈍麻・・・苦手な刺激は減らし、抵抗のない、得意な刺激を活用

4. 注意欠陥・多動性障害（ADHD）・・・不注意・多動性・衝動性への配慮

- ①引き起こしにくい環境を工夫する (周囲からの刺激が少ない環境)
- ②成功経験を重ねる
 - ・できたことをほめる
(例) 他児におもちゃを投げようとする←「投げないよ」「下ろしてね」
(やるべきことを具体的に短く伝える)
投げるのをやめる← ●「投げなかったね」(我慢できたことをほめる)
×「投げたらだめだよ」
 - ・我慢する方法、代わりの行動を一緒に考える

5. 多様な支援を必要とする子どもの理解と保育

①日本語が母国語ではない子ども

- ・家庭では、これまで使ってきた母国語でやりとりすることが大切
 - a. 母国語がしっかり育つことで、日本語もよく身につく
 - b. 思考・知的活動には、母国語の力の保持・向上が大切
 - c. 親子間のコミュニケーションのため
 - d. アイデンティティの混乱を緩和

* 母国語の形成が不十分な子ども・・・知的発達に問題があるかどうか専門機関との連携が重要

② 貧困家庭の子ども・・・経験不足

- 生活習慣の課題 ・生活リズム・・・規則正しい起床・就寝、3度の食事
 - ・健康、清潔のための行動
- コミュニケーションの課題 ・人と適切な距離感でかかわる
 - ・感情表現

- ・ 五領域の「ねらい」と「内容」を参考に経験不足を補う
- ・ 子どもの安心・安全な生活と、生活の中で自然に得られる経験を保障する
- ・ 福祉の専門機関と連携する

6. 集団としての保育の環境

- ① 「個の世界」を尊重する・・・一人遊びをそばで見守る
- ② 同じ空間で、同じようなことをする
- ③ 関心を持って寄ってくる子に、かかわり方を丁寧を示す(ポジティブなイメージで)。
- ④ 集団の中での個別の配慮・・・気持ちの代弁・個別の指示・見通しを伝える

* 周囲の子への配慮・・・否定的態度や制止の声かけに注意・行動や状況の説明

7. 家庭との連携

- ① 保護者が子どもの問題に気づいていない

親ごと子どもの育ちを支援していく視点が必要

- ② 子どもの問題に気づいているが、受け入れ、認めることができない
 - ・ 問題の原因が自分の子育てにあると思い込み、指摘されるのを避けたい
 - 診断により、ほっとすることもある
 - ・ 原因が不適切なかかわり(虐待)の場合、子どもの問題も認めたくない

- ③ 保護者にも障害がある場合がある

* キーパーソン・支援が得られる親族の把握、専門機関との連携

* 必ず、チームプレイで

* 保護者に伝えること

- ・ 発達の現状把握(今できること) → 短期の目標を立ての取り組み → 成果
- ・ 「A君が○だったので、担任が○したら、○できた。」

まとめ（キーワード）

- ①五感 過敏と鈍麻の把握
- ②環境 過敏と鈍麻に配慮しながら五感を働かせられる環境
- ③自主性・自発性 取り組みやすく、身につけやすい
- ④肯定 意欲・人格形成・他児への影響
- ⑤経験 積み重ねの効果

子どもの発達に関する最新の知見(特別支援教育に関するものを含む)と 多様化に応じたクラスづくりと担任の役割

発達

心身、及びその社会的な諸関係の量的及び質的变化・変容

最新の知見

現在の価値観に基づき、正常な発達、望ましい発達を想定して、研究され、わかったこと

*** 発達の最新の知見として、発達障害を中心に解説し、関わり方等の担任の役割について考えます。**

1. 発達障害とは

生まれつき、もしくは生後のごく早期に、脳の中樞神経系に不具合が生じ、言語や認知、運動、社会性などの発達につまづきが現れる障害

（誤解：本人のわがまま・努力不足、保護者の育て方のせい）

2. 「気になる子」と発達障害

個性と障害の区別はあいまい、あまり意味はない

診断名よりも、何に困っているか、それに対して①どう支援すればいいか

②環境をどう調整するか が大切

* 発達により、診断名が変わることも

* 医師により、診断が異なることも

3. 支援のポイント

①困っていることを知る

②スモールステップで目標を達成していく

③ほめて意欲を育てる

④何をしたらいいのかを具体的に伝える

4. 園・保育者にできること

①集団保育の中で、共に育ち合う関係をつくる

②職員のチームワークにより園全体で支援する

③他の保護者や地域への働きかけ

④関係機関との連携（医療、保健、福祉、教育：児童相談所、療育施設、特別支援学校等）

5. 主な発達障害

①自閉症スペクトラム障害

- 特徴**
- a. 対人関係、コミュニケーションの障害
 - b. 行動、興味、活動パターンへのこだわり
* 感覚の過敏や鈍麻

- 対応**
- a. 不安を受け止める
 - b. 他の子との関わりを支援する
 - c. 感覚過敏からの苦痛に配慮
 - d. 活動の見通しを持たせる（見て理解しやすい場合は、絵カード、写真など）

②社会的コミュニケーション障害

- 特徴**
- a. 状況や相手に合わせたコミュニケーションが困難、「空気が読めない」
 - b. あいまいな言い回し、たとえ話が理解できない

- 対応**
- a. 溶け込めるようサポート（誘う、相性のいい子を近くに）
 - b. 「～してはだめ」よりも具体的に「～しよう」
 - c. 嫌な思いをした子の気持ちを伝える。本人の気持ちも汲み取り、適切な関わりを教える
 - d. 具体的でシンプルな表現で伝える

③注意欠陥/多動性障害

- 特徴**
- a. 注意力の欠如（気が散りやすい、集中力がない、物をなくす・忘れる）
 - b. 多動性（じっとしていられず動き回る） → 成長と共に目立たなくなる
 - c. 衝動性（予測や考えなしに行動を起こす） → “

- 対応**
- a. 後悔や自責の念を汲み取る（分かっているのにやってしまう）
 - b. 気が散らない、集中できる環境づくり

④特異的学習障害

- 特徴**
- 聞く、話す、読む、書く、計算する、推論するなどの能力のうち、どれかが著しく低く、学習に支障をきたす（目立つのは就学以降）

- 対応**
- 道具を使ってサポートする

⑤発達性協調運動障害

- 特徴**
- 視覚、聴覚などの感覚からの情報に基づき身体を適切に動かす協調運動の機能の遅れ。運動、日常生活動作がぎこちない、不器用。

- 対応**
- a. 身体を動かす機会を増やす
 - b. 気長にゆったり見守り、できなくても頑張り进行评估する

6. 保護者対応

①. 保護者の要因

- a. 心理：ショック、劣等感、いつか追いつく、やっぱり違う、周りからどう思われるか
- b. 事情：家族関係、経済的問題、孤立

①障害の可能性や気になる行動を性急に伝えない

不安があっても、受け入れたくなく、気づかないふりをしている可能性
「先生（園）は、そんなふうに思っていたんだ」 → 大きな溝に

②信頼関係を築く

- a. 共感、労い、家庭でのやり方などを真摯に学ぶ姿勢
- b. 日々のコミュニケーションを大切にして、良いところをこまめに伝える
- c. 担任以外の職員も子どもを理解する言葉、ほめ言葉をかける
- d. 専門機関の情報を収集（要望があったらすぐ紹介）

7. 集団行動での困難の背景と対応

①保育室(教室)に居られない

- 背景**
- a. 興味のある物がない・苦手な物がある
 - b. 集団の中にいるのが苦痛
 - c. 他に行きたいところがある
 - d. 保育者が追いかけてくれるのが楽しい

- 対応**
- a. 興味のある物、活動を準備する。苦手な物を可能な範囲で目につかなくする。
 - b. 安心できる居場所を準備し、ゆっくり集団に参加させる
 - c. タイマーの活用(徐々に時間を延ばす)。
 - d. 活動に参加している間に充分関わる。出て行ったら冷静に戻すようにする。

②活動に集中できない

- 背景**
- a. 興味が持てない
 - b. 他のことが気になる
 - c. 活動内容に苦手な部分がある

- 対応**
- a. 好きなことに関連した内容に変更する
 - b. 気が散る要因を取り除く(ゆとりを持って座れるようにする、不要物をしまう)
 - c. 一緒に取り組む。具体的に手順、見本を示す。提案してしまう。

③指示に応じた行動をしない

- 背景**
- a. 周囲の刺激に気を取られ、聞き取れない
 - b. 自分に言われていると気が付かない
 - c. 指示の意味が分からない
 - d. 耳からの情報を理解するのが苦手である

- 対応**
- a. 気が散らない環境を整える(蛍光灯のチカチカ、目につくものなど)
 - b. 注目させる声かけをし、聞いていることを確認してから指示
 - c. 具体的に簡潔に、わかる表現で指示
 - d. 絵や写真を併用して指示.

④じっとしてられない

- 背景**
- a. 周囲の刺激が気になる
 - b. 同じ体勢を続ける、じっとしていることが苦手
 - c. 活動に興味を持たない

- 対応**
- a. 少しずつ参加時間を延ばす(全部の参加は求めない)。参加したらほめる。
 - b. 動く役割を与える。静的な活動の前に大いに身体を使って遊ぶ。
 - c. 刺激を遮断する。動きにくい環境作り。モデルとなる友だちを近くにする。

⑤行事やその練習への参加が難しい

- 背景**
- a. 1日のスケジュール、予定が変わることに不安
 - b. 経験がないことへの不安
 - c. 並ぶ、待つなどの指示が理解できず、苦痛
 - d. 大人数の中の騒がしさ、人とくっつくことが苦手

- 対応**
- a. 活動スケジュールを示す(見て分かるようになるなど)。変更の可能性も伝える
 - b. 過去の映像など、何をするのか見通しの手がかりを与える
 - c. 並ぶ位置、何をするのかの指示等、分かりやすくなるよう工夫する
 - d. 全体の流れを見る、部分的に参加から徐々に参加を増やす。

⑥パニックを起こす

- 背景**
- a. 不安・恐怖
 - b. 不快

- 対応**
- 1. パニック前の出来事、状況をつかみ、推測する
 - 2. 慌てず、静観(大声は出さない)
 - 3. 落ち着く場所がある場合、可能なら移動。安全な環境を整える。
 - 4. 治まってきたら、気分転換